

■欧州：ストレステストの評価仕様で合意、テロリスクは分離

欧州委員会と加盟各国は域内原子力発電所に対するストレステストの評価仕様について2011年5月25日に合意に達した。ストレステストの評価仕様に関する協議は5月12日に実施されたが、テロリスクの扱いを巡り紛糾し、2週間の議論を経てようやく収束した。当初策定された仕様案は自然災害のみを対象としており、エッティンガー・エネルギー担当委員やオーストリアはテロ・航空機衝突を含めるよう主張、仕様案を支持する英仏らとの対立が合意を阻んだ。最終的には「故意の破壊活動」は評価の対象外とすることで妥結が図られたが、テロリスクは別に設置される作業グループで継続検討することで決着が着いた。ストレステスト本体から分離することにエッティンガー委員が合意した理由として「テロ対応は国防の範疇であり、原則公開のストレステストと同列に扱えない」と説明しており、この部分は非公開となる。評価の目的は、地震や洪水とこれに随伴して発生する電源喪失および冷却手段喪失に対するプラントの耐性評価および必要な対策の検討を主眼とする。評価は6月1日より開始され、許認可保持者による評価、各国規制機関による評価結果レビュー、欧州委員会が設置する評価チームによるレビュー結果の審査の3段階を経て2012年4月末までに完了する予定となっている。